

T

賛助会員たより

Talking about you...

～パパと子どものお風呂事情～

(株)INAXカーゴマーケティング 山形営業所 所長 吉岡千尋



皆様、「イケメン」ならぬ「イクメン」という言葉をご存知ですか？育児を積極的に率先して行う男性、育児を楽しんで行う男性を指し、恥ずかしながら私も自称「イクメン」の一人です。

さて、INAXが昨年実施した小学生以下の子どもがいる男性824名を対象にした調査で「イクメン」と「浴育」についておもしろい結果が出ているので少しご紹介いたします。

子どもとお風呂に入るパパは、3年続けて増加

2008年の調査では、小学生以下の子供がいる男性（202人）のうち、平日に子どもとお風呂に入るパパは52.5%、休日では73.8%、2010年の調査では、平日75.3%、休日82.9%と一挙に増加。昨今のイクメンブームを裏付けるかのように、子どもとお風呂を楽しむパパの姿を通して、パパ達が子育てを楽しんでいる姿が垣間見えました。

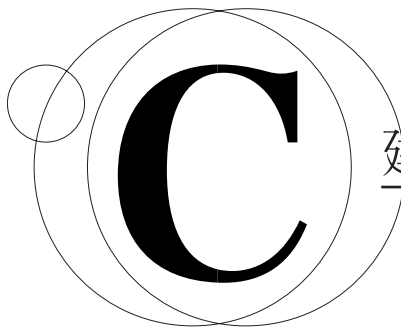
『イクメン』の8割が子どもとお風呂に幸せを実感、『浴育』を高く評価

調査対象の44.6%が自分を『イクメン』だと認識。イクメンパパ達の8割が、「浴育」について「子どもの成長にとって望ましい」（75.3%）、「子どもとの裸の付き合いは良い親子関係作りに欠かせない」（76.3%）と考えています。一方、『非イクメン』では、「子どもの成長にとって望ましい」（50.6%）、「裸の付き合いは良い親子関係作りに欠かせない」（57.8%）と『イクメン』より賛同する意見が少なく、『イクメン』の浴育に関する関心の高さが際立ちました。

実際に、『イクメン』の54.1%が、子どもが生まれて間もない時から一緒にお風呂に入るようになり、平日で86.1%、休日89.7%が子どもと一緒に浴育に入ると答えています。そして、実に『イクメン』の78.6%が「子どもと一緒に浴育に入る時に幸せを実感」しており、子どもの入浴を介助、補佐するという親としての役割意識からではなく、自分自らが子どもとの入浴を楽しんでいました。お風呂は、『イクメン』の本領が発揮できて、且つ、子どもとの絆を育める大切な場になっていることが窺えます。

子どもと一緒に入るのも小学生の間だけ。パパと子どもの良い関係、基礎はお風呂でつくる！？

「お風呂」を卒業した後の子どもとのコミュニケーションづくりのために、半数以上のパパが、子どもと一緒に出かけたり、スポーツや趣味・ゲームなどを楽しんだり、家族旅行をしたり、休日には少しでも一緒にいる時間を作るなど、積極的に子どもとの良い関係作りのために努力しています。とりわけ、『非イクメン』よりも『イクメン』の方に子どもと積極的に関わろうとする姿勢が見られました。また、浴育を評価し、子どもとお風呂の時間を大切にしているパパの方が、お風呂卒業後も子どもとのコミュニケーションを大切にしているようです。パパの子育ては、赤ちゃんをお風呂に入れることから始まり、「お風呂と一緒に入る」機会を通して良い関係が培われ、お風呂を卒業した後も形を変えて、子どもの成長とともに続いていました。パパと子どもの良い関係作りに、「お風呂」がかなり重要な役割を果たしているといっても過言ではないようです。



建築事務所キャンペーン

Campaign

(有)遠藤昭五建築設計事務所
遠藤 昭五
(山形地区)



建築事務所キャンペーン事業について

「きのうは何人来ました？」と聞いてみたのが、8月28日・29日の両日行なわれた「住宅リフォームフェア 2010 in山形」において開催された、「建築事務所キャンペーン」について、朝開口一番に出てきた言葉だった。五月下旬、私那不慮の交通事故に遭い、三ヶ月の入院生活。退院したのがキャンペーン開催の一週間前だった為、まだまだこのようなイベントに参加するに至らないという事で、当社から代理を出すことになった。私の事務所がお手伝いしたのは、二日目の29日。代理となった社員は、「どのくらいの人（人数）が来るのか」「私みたいな者が足手まといにならないのか」等、不安を持ちながらキャンペーンに参加したようだが、30日の朝、話を聞いてみると、事務所協会のイベントに参加し、少しでも貢献出来たことがうれしかったと言っていた。このようなイベントに参加出来るという事は、建築士事務所という存在を大きくアピールするチャンスではないでしょうか。協会会員の一人でも多くの参加と、企画イベントの提案等、会員皆様の協力を賜り、このようなチャンスを確実にものにしていく必要があると思っています。他のブースでは色々な企画を用意しているようだ。無料プレゼントの配布や体験コーナー等、常に人が絶えない人気のブースもある。私達の団体でも「在来工法の良さ」「こだわりの家づくり」「顔のみえる家づくり」などなど、「建築士事務所」としてみんなが協力しあい、建築士事務所の良さを、もっともっとアピールできる事がたくさんあるのではないかと。また、大人を対象とするだけでなく、子供にも喜んでもらえる企画など、「建築士事務所に所属する人に頼めば、このような家に住めるんだ」「将来こんな仕事がしたい！」と夢が持てるイベントを、考えて行く必要があると考える。「きのうは何人来ました？」「いっぱい来すぎて、人が足りなくて大変だった。」と言える日が近い将来くる事を願う。

